

日本労働年鑑 第52集 1982年版  
The Labour Year Book of Japan 1982

第二部 労働運動

VII 公害反対闘争

7 その他の公害問題への労働組合のとらえ

日教組の教育研究全国集会

一九八一年一月一三～一六日の四日間、東京で日教組第三〇次・日高組第二七次教育研究全国集会が行われ、一回目の「公害と教育」分科会が開かれた。第一日の全体会では、基調提案と三つの報告が発表された。基調提案では、二年を経過した「公害と教育」分科会を通じて、公害教育は着実に前進しており、この間の特徴は、第一に「公害告発の教育から、環境教育にじりじりと近づいていること」、第二に「総合化が進んでいること」、第三に「調査の報告が増えていること」であり、「いまや住民運動も教育実践も停滞や風化をこえて、七〇年代とは違った八〇年の新しい段階に入っている」と報告された。つぎに、北海道高教組の「岩内(共和・泊)原発設置反対闘争の経過と現況」が報告され、つづいて静岡教組の「ムラサキツユクサは語る——原発を監視しよう」、宮崎教組の「環境を生命を——土呂久鉱害のたたかいと公害の教育実践」が報告された。岩内原発闘争の報告は、七八年度教研につづく二度目であり、闘争は一二年におよんでいる。ムラサキツユクサの花弁による放射能の影響調査は、七八年以降教師と地元農民らとの協力でおこなわれているものである。土呂久鉱害は、七一年度の山梨教研で初めて報告され、休廃止鉱山の公害問題を大きく社会問題化するきっかけをつくった事件であり、それ以後毎年教研集会で報告されてきたものである。

二日目の全体会では、教育実践を主内容としたものとして三つの報告がおこなわれた。すなわち、滋賀高教組の「公害の原点を求めて——修学旅行での水俣現地学習」、千葉教組の「手賀沼汚染を追って——自主編集による公害単元の実践授業書作り」、都教組の「低湿地の都市化と水の処理」が報告された。また、岡山高教組からは「都市に自然を！ 岡山自然教育公園構想のとらえ——暮らしに、自然をよみがえらせるために」と熊本教組の「子ども不在の学校給食——パック米飯給食を問う」が報告された。この二つの報告は、「公害と教育」分科会では新しい内容の報告であった。

三日目の分散会では、一八の報告がなされた。特徴的なことは、第一に、原発問題が五本報告されていることである。すなわち、青森高教組の東通村原発、福島教組の福島原発、和歌山教組の日高町原発、山口教組の豊北原発、高知教組の窪川町の原発設置をめぐる町長リコール問題である。また、新潟高教組も「自主編成国語教育実践例——原子力の困難1」で、原発問題をとりあげている。第二に、合成洗剤問題が、八本とりあげられていることである。第三に、NO<sub>2</sub>による大気汚染調査が四本報告されていることである。特に、埼玉高教組の調査は五年間におよび、測定結果をもとにしての県へのはたらきかけなど、大きな活動をしてきており、また八〇年の日教組の全国調査の一つのきっかけをつくったものである。

東邦亜鉛安中製錬所の農業被害にたいする損害賠償を求める裁判は、七二年四月に提訴され、八年八ヵ月の審理をへて、八〇年一二月一六日結審した。同裁判は、全国で初めての公害による農業被害の賠償を求めるものとして注目されていたものである。結審に先だち、安中裁判原告団は、東邦亜鉛の本社が所在する中央区の区労協と農林水産省・通産省・環境庁などが所在する千代田区の区労協に、裁判闘争の支援を要請した。要請にもとづき、結審前日の決起集会に両区労協の代表が参加し、裁判闘争支援の決意表明をした。八一年三月二五日午前、中央区労協は、区内の主要駅で「東邦亜鉛は安中公害の責任を取れ！」というビラをまき、昼休みには数寄屋橋より東邦亜鉛本社とスモンの加害企業武田薬品工業本社までデモ行進した。大雨のなか、デモには延べ約七〇〇人の労組員が参加した。午後には、千代田区労協とともに、農林省、通産省および環境庁に土壤完全復元早期実現等を申し入れた。四月四～五日、中央・千代田両区労協は、安中鉱害の現地調査を実施した。一日目は、原告団および弁護団との交流集会ののち、農家の家に分宿して懇談し、二日目は製錬所を現地調査した。調査には約三〇人の組合員が参加した。その後も、中央区労協は、東邦亜鉛への抗議行動をつづけており、また署名・カンパ活動などを実施している。

日本労働年鑑 第52集 1982年版

発行 1981年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月18日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1982年版(第52集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---